

新福岡県立美術館整備事業
基本設計書（概要版）

2024年3月

KENGO KUMA & ASSOCIATES

隈研吾建築都市設計事務所

目次

■ 建築（総合）

I	基本方針	
I-1	基本方針	・・・3
I-2	基本設計イメージ	・・・3
II	計画条件	
II-1	敷地概要	・・・4
II-2	現況敷地	・・・4
II-3	建物概要	・・・4
III	建築計画	
III-1	設計方針	・・・5
III-2	配置計画	・・・6
III-3	平面計画	・・・7
III-4	立面計画	・・・13
III-5	断面計画	・・・14
III-6	デザイン計画	・・・15

■ ランドスケープ計画

I	基本方針	
I-1	外構・植栽計画設計方針	・・・19

建築（総合）

I 基本方針

I-1 基本方針 I-2 基本設計イメージ

■新県立美術館の基本方針と目指すイメージ

- ・新福岡県立美術館では、地理的、歴史的な背景や県民性などを踏まえ、「芸術の可能性を拡げ、挑戦する美術館」を目指す。
 - セントラルパーク基本計画の新しい拠点となるよう、周辺環境との関係性に配慮した美術館を計画します。
 - 街と公園をつなぐ通り抜け空間「**アーバンスリット**」を計画し、美術館を軸に都市と公園の接続を促します。
- ・これまで蓄積してきた貴重なコレクションをより一層充実させるとともに、九州各県の美術館と連携し、九州という大きなスケールの中で幅広く文化芸術活動を発展させていくため、「九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館」を目指す。
 - 異なる空間が立体的につながることによって新しいコミュニケーションが生まれることを期待し、美術館の中心に大きな吹抜空間である「**メディアヴォイド**」を計画します。
 - 各展示室の中間に緩衝空間である「**メディアスリット**」を計画します。メディアスリットは建物を南北に貫通し、内外のつながりを促します。
- ・「芸術の可能性を拡げ、挑戦する美術館」、「九州・福岡県の文化芸術の発展に貢献する美術館」の2つを両輪とし、県民や芸術家が主役となり、県民とともに成長する「県民が親しみ、誇りを育む美術館」を目指す。
 - 県民のためのギャラリーを国体道路側に配置し、外部からも県民のアート活動が覗けるような計画とします。
 - スタジオ、ワークショップスペース、キッズスペースをそれぞれ大濠公園側に並べ、各所の活動が外側にも滲みだす計画とします。
- ・大濠公園の魅力を最大限に活かし、様々な文化芸術活動が実施されるフィールドとして活用していくことが重要であり、「公園と一体となった美術館」を目指す。
 - 美術館の南北の外側に公園、街と一体となる前庭空間である「**草香江ギャラリー**」と「**ケヤキギャラリー**」を計画します。
 - 平面計画を雁行させ、また建物高さを日本庭園側にステップダウンさせることで、大濠公園と日本庭園に馴染む美術館とします。
 - 建物を印象付ける、深く持ち出した庇「**グリーンイーブス**」を計画します。グリーンイーブスは日射を遮り、環境性能の向上に寄与します。
- ・ワンヘルスを推進し、健康で健全な環境を次世代へつなぐ美術館を目指す。
 - 建物に地域産材を用い、産業の育成に貢献します。
 - 自然素材を積極的に採用し、あたたかさ、やわらかさのある空間を創出します。
 - カフェ、レストランにて地産地消の推進と食育に貢献します。

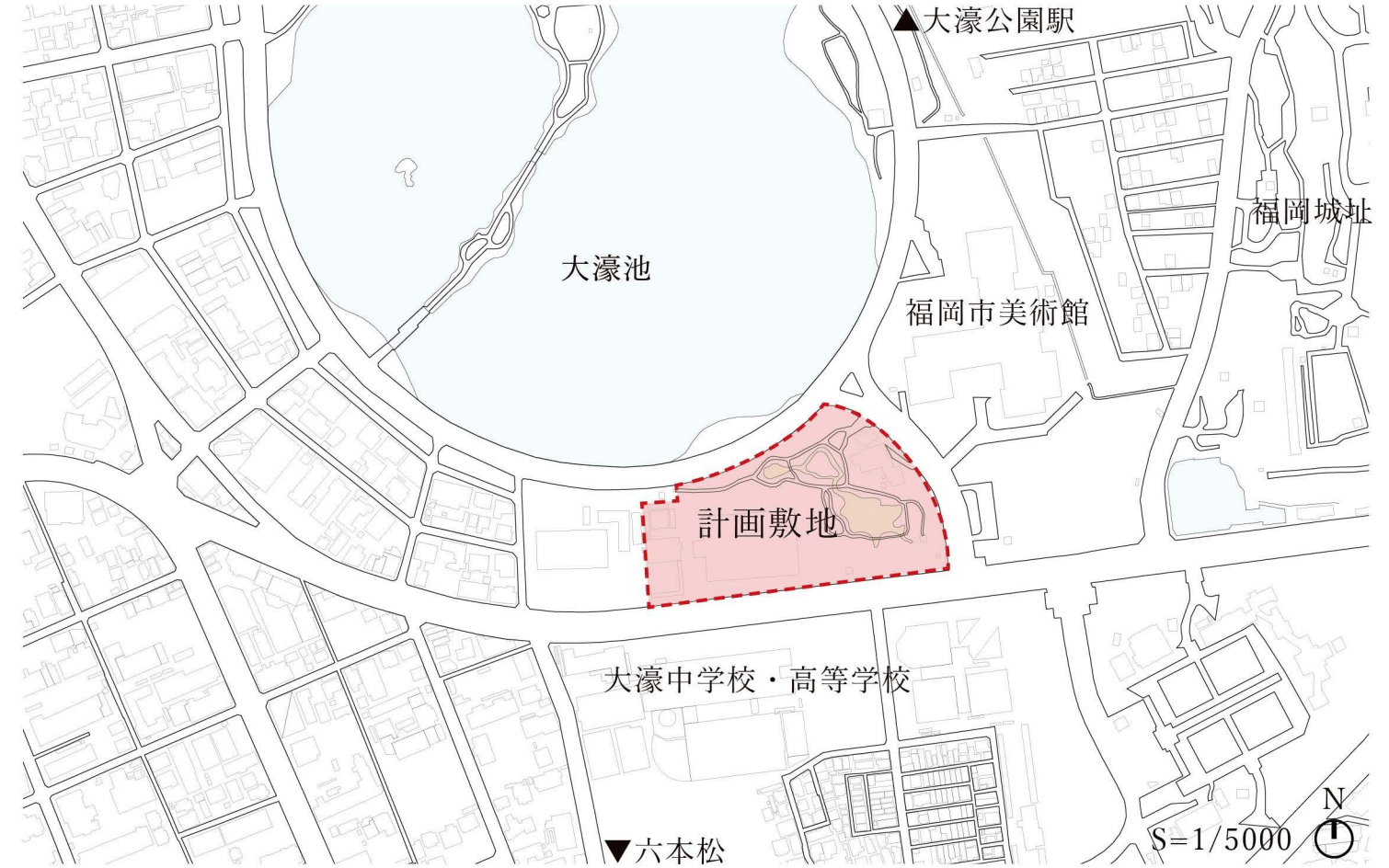


II 計画条件

II-1 敷地概要

建設地	: 福岡県福岡市中央区大濠1丁目1番1号他
敷地面積	: 20,666 m ²
前面道路	: 南 22m
都市計画	: 都市計画区域内
用途地域	: 第一種住居地域、第二種住居地域
防火地域	: 準防火地域 市道堅粕西新2号線（国体道路）から 50m
特別用途区域	: 該当なし
風致地区	: 第三種風致地区
高度地区	: 第二種 15M 高度地区
地区計画	: 該当なし
日影規制	: 高さ 10m を超える建築物 敷地境界線より 5m を超え 10m 以内、 4 時間 / 10m を超える範囲 2.5 時間 平均地盤面からの高さ 4m
建ぺい率	: 建築基準法 60% 風致 40% 県都市公園条例 12%（公園面積に対する割合）
容積率	: 200%
斜線制限	: 道路斜線 適用距離 20m 1.25/1 隣地斜線 立上高さ 20m+1.25/1
その他	: 許可区域（公共下水）都市公園内 都市公園法 景観法 屋外広告物法 文化財保護法 バリアフリー法 福岡県福祉のまちづくり条例 福岡市福祉のまちづくり条例

II-2 現況敷地



II-3 建物概要

・主要用途	: 美術館
・工事種別	: 増築
・規模	: 地下 1 階、地上 4 階
・建築面積	: 約 7,100 m ²
・延床面積	: 地下 約 5,900 m ² 地上部 約 15,000 m ² 合計 約 20,900 m ²
・最高高さ	: 設計 GL + 21m
・耐火性能	: 耐火建築物
・防火対象物の別	: 16 項（イ）

■構造概要

・主構造	: 鉄骨造、一部 RC 造
・免震形式	: 柱頭免震

III 建築計画

III-1 設計方針

敷地概要・配置条件

■敷地概要

- ・建設予定地のある「大濠公園」は、福岡城の外濠で、入り江でもあった草香江をもとにした大きな池が特徴的な公園。付近には福岡市美術館、福岡城址などがあり、福岡県民の憩いの場として親しまれています。
- ・敷地内には中根金作氏が作庭した日本庭園が内包されています。
- ・敷地南側の国体道路と接道します。

■アクセス

- ・自動車、公共交通機関、自転車、徒歩等様々な手段でのアクセスが想定されます。
- ・最寄り駅は大濠公園駅、六本松駅の2駅です。
- ・福岡空港、博多港国際ターミナルからのアクセスも良好な為、国内外より多くの利用が想定されます。

■建設形態および建物配置

- ・隣接する日本庭園への配慮として、庭園側に向かってボリュームをステップダウンさせます。
- ・北、東、南面それぞれからの見え方に配慮し、雁行した平面形とすることで各方向への圧迫感を軽減します。
- ・福岡市風致地区条例に配慮し、既存樹木への影響を最小限とできるような配置計画とします。また、建物の最高高さを既存の武道館と同程度に抑えます。

【鳥瞰図】



配置・形状コンセプト

■大濠公園の景観と日本庭園に配慮したステップボリューム

- ・日本庭園に向かって建物をステップダウンさせることで、日本庭園の景観に配慮します。
- ・多様な高低差をもつ庇が積層することで、他に無いキャラクターを持ったファサードとします。

■周辺環境と調和する雁行配置

- ・福岡市美術館や茶室・茶会館、能楽堂と共通する雁行型の配置が、周辺環境を取り込みながら建物のボリューム感を軽減し、自然と調和するヒューマンスケールの空間を創出します。

■大濠公園と西公園、六本松をつなぐ新たな都市の軸・アーバンスリット

- ・本多静六が大濠公園を起草する発端となった西公園と松林の関係を継承し、大濠公園と西公園、六本松をつなぐ都市軸と一体的な方向性をもつ新たな都市の軸を作ります。

【大濠池対岸視点】



【日本庭園視点】



【国体道路視点】



【武道館入口視点】

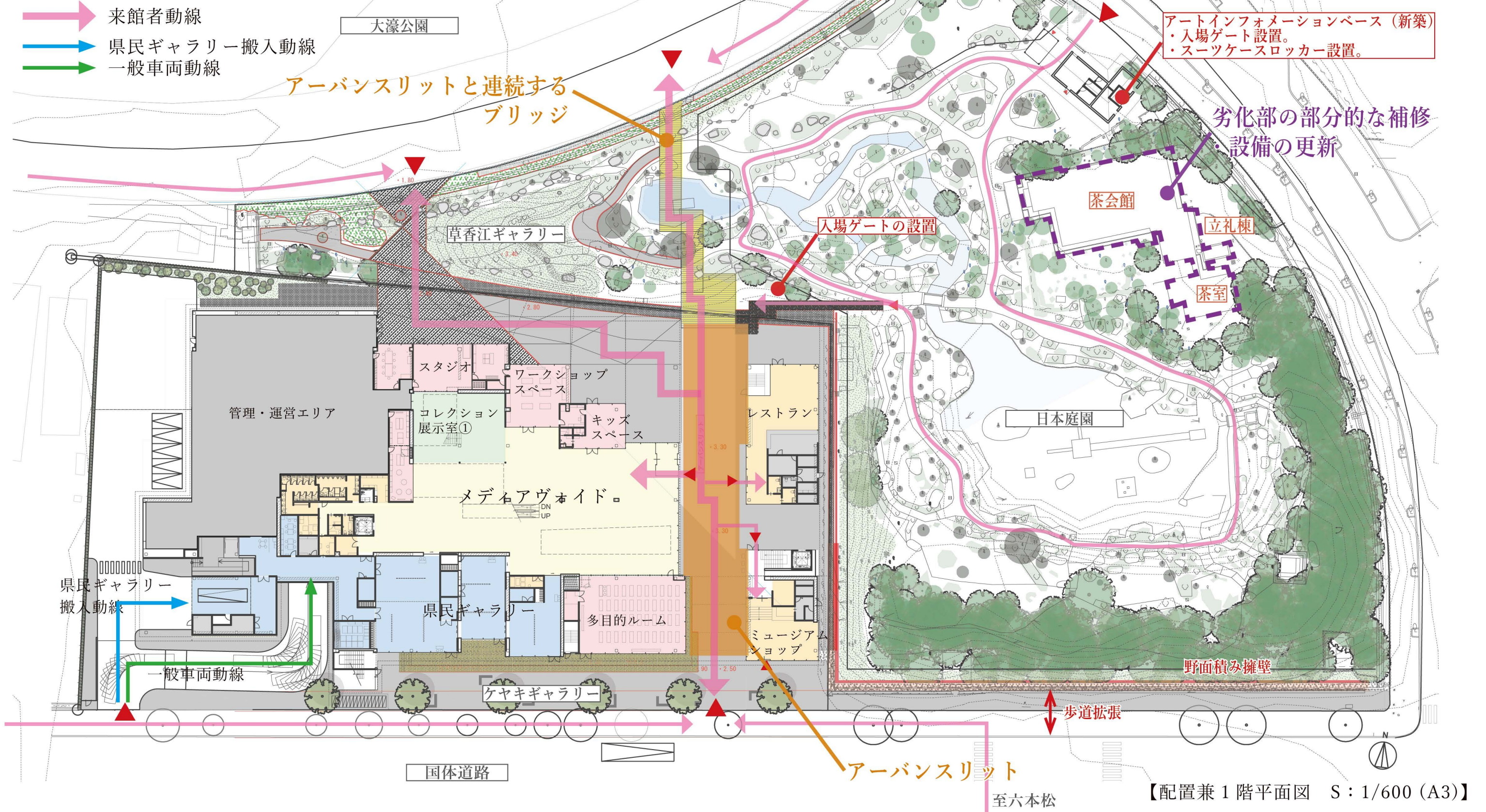


III 建築計画

III-2 配置計画

■基本方針

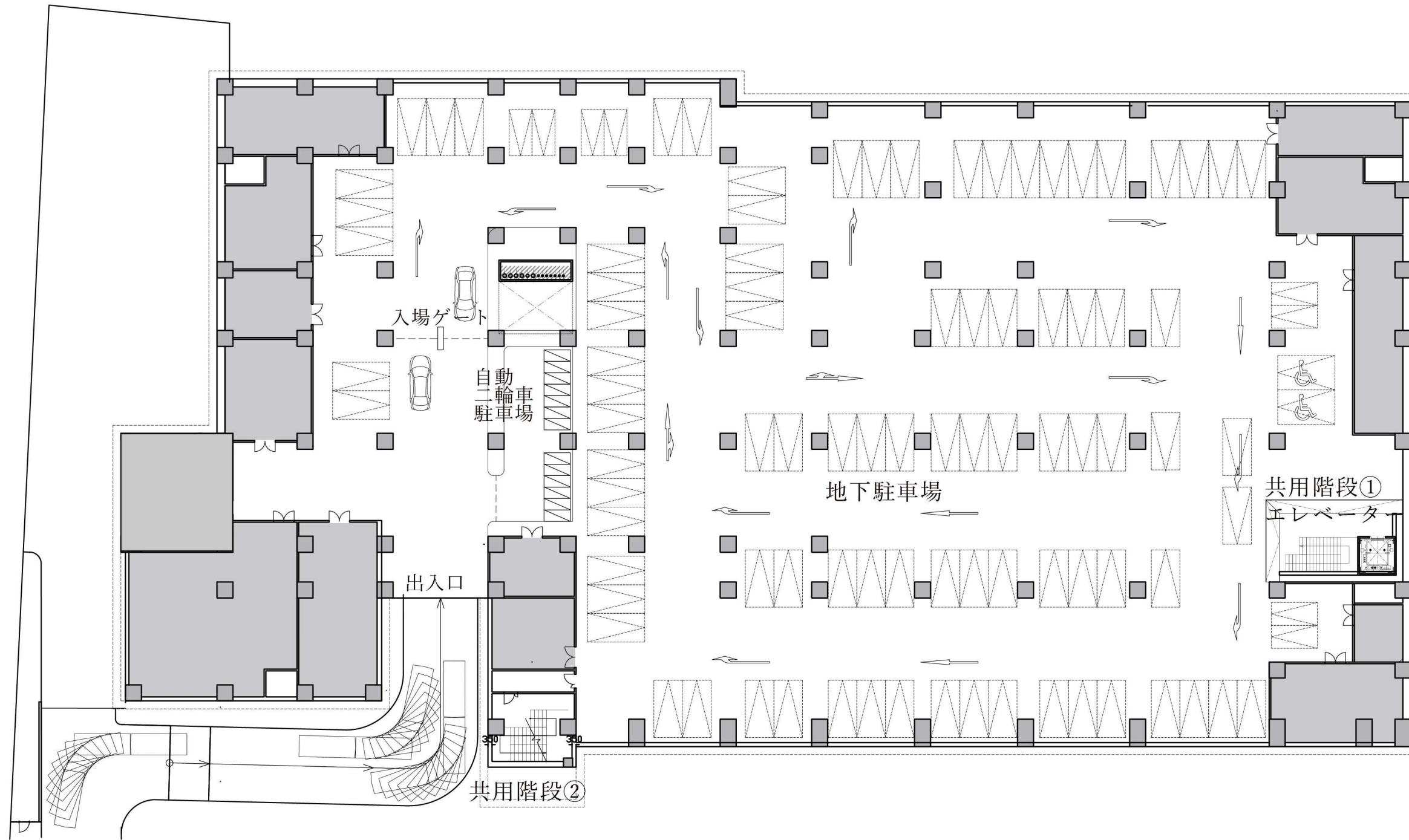
- ・既存武道館の敷地を最大限活用し、日本庭園の樹木への影響を抑えた配置計画とします。
- ・日本庭園と大濠公園という自然に恵まれた周辺環境に対し、建物を細かく雁行させることで環境に馴染んだ平面形とします。
- ・国体道路から大濠公園への新しい通り抜け「アーバンスリット」を計画し、美術館を軸に都市と公園の接続を促します。



III 建築計画

III-3 平面計画

地下階平面図 1:400 / B1FL=GL-4500



■地下駐車場

- ・地下駐車場について、自動車駐車場 96 台、自動二輪車駐車場 13 台を設けます。
- ・車いす利用者用駐車施設はエレベーターの近くに配置します。
- ・円滑な通行、駐車が可能な 5.6M の通路幅を確保します。

■共用階段

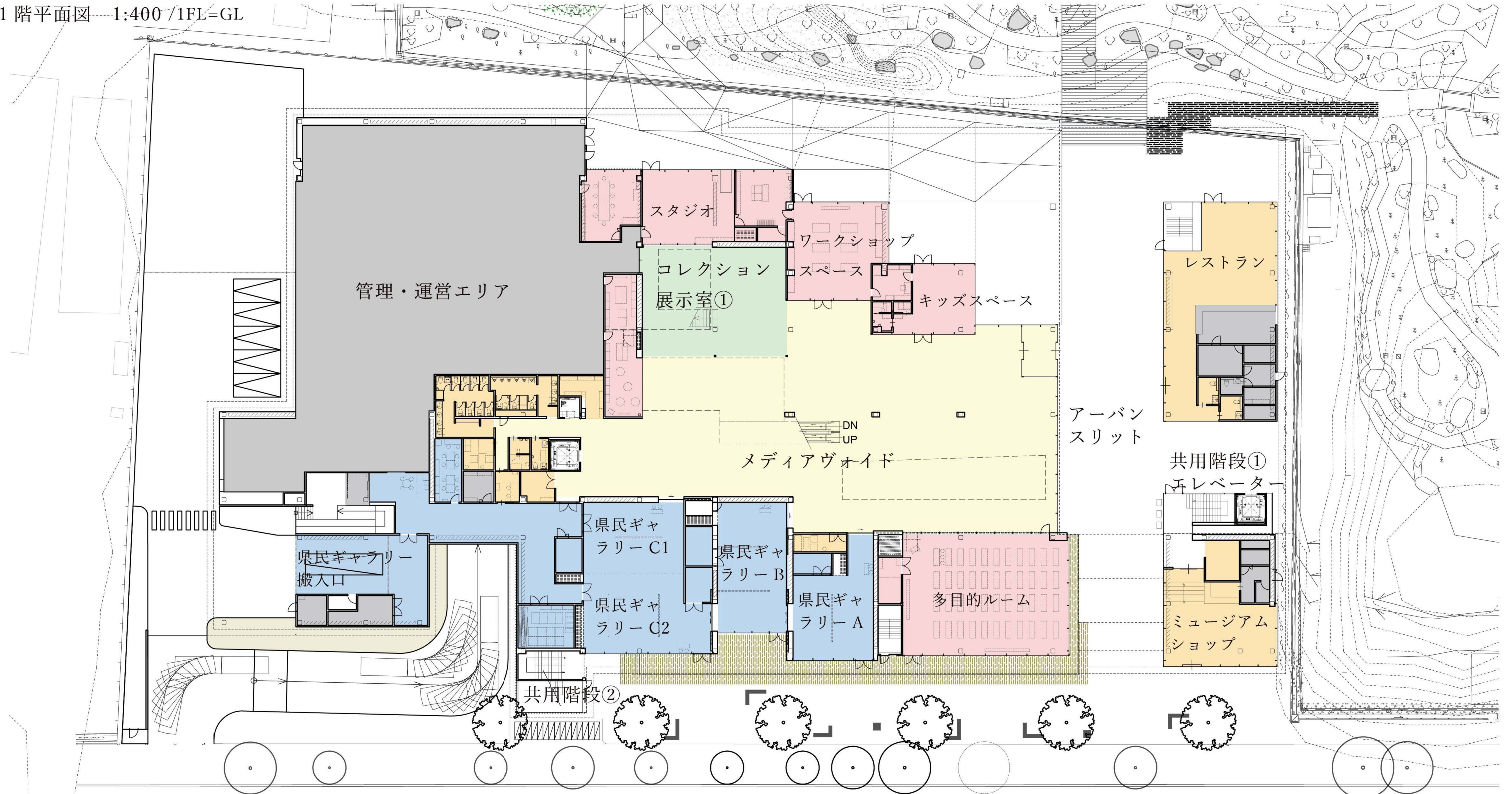
- ・歩行者の地上への出口として、東側に共用階段とエレベーターを 1 機、南側に共用階段を設けます。



III 建築計画

III-3 平面計画

1階平面図 1:400 / 1FL=GL



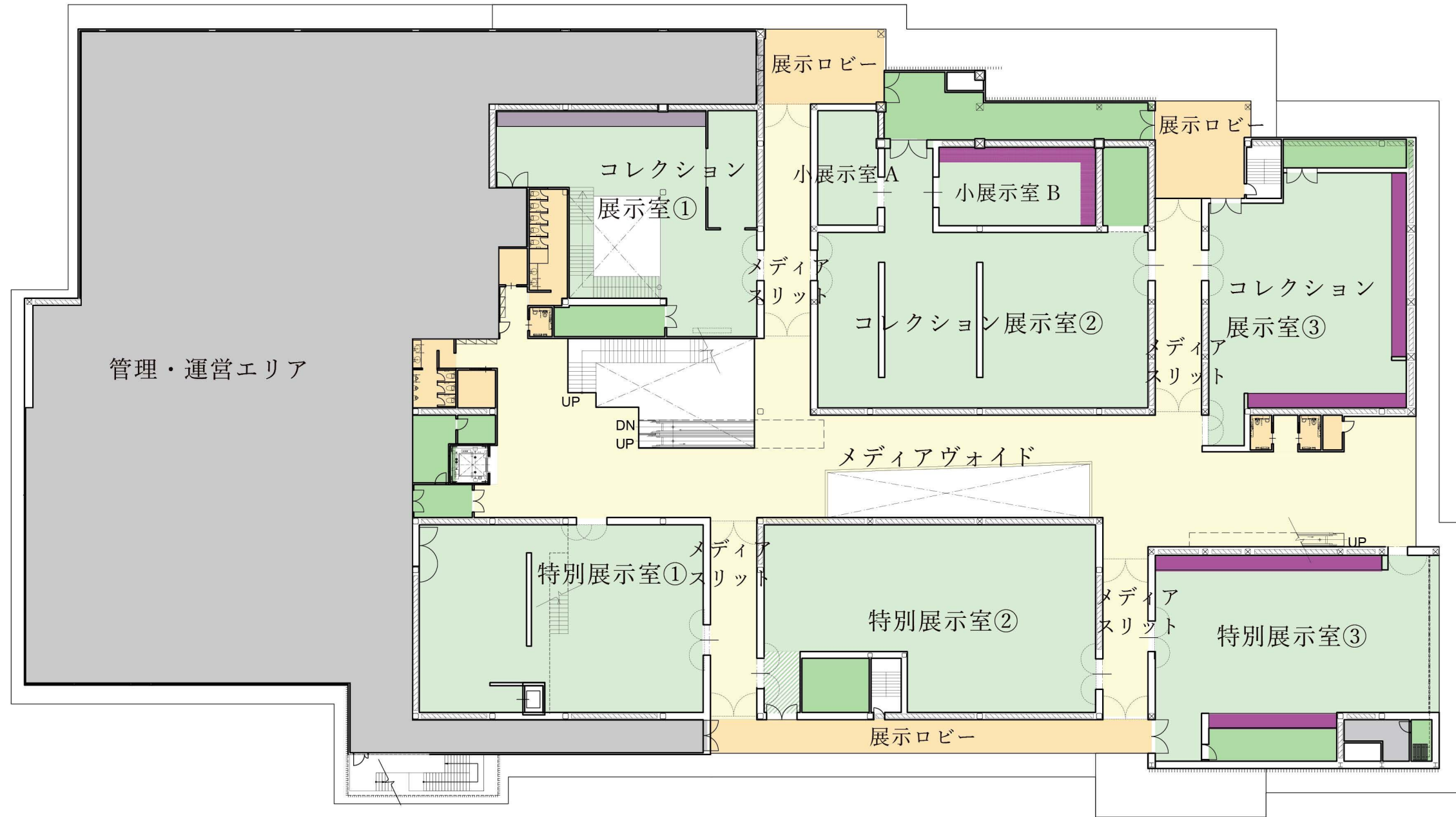
- 多目的ルーム
・多様な活用を想定しメディアヴォイド側に解放できるよう室の北面を移動間仕切りガラスとします。シアター利用ができるよう遮光カーテンを設けます。
- キッズスペース
・草香江ギャラリーに面して配置し、屋外を部分的に広場利用できるように計画とします。
・室内にトイレ、授乳室を併設します。
- ワークショップスペース
・草香江ギャラリー、メディアヴォイドに面しイベント等の活動が来館者、公園利用者に感じられる配置とします。
・講演会や創作活動を想定し、ストレージ機能をもつ控室を併設します。
- スタジオ
・コレクション展示室①との連携を想定し、スタジオの南面を移動間仕切りガラスとします。

- 県民ギャラリー
・県民ギャラリーは計4室の構成とし、国体道路側に大きく開口を取り、地域にひらかれた展示室とします。
- ミュージアムショップ・レストラン
・アーバンスリットに面した視認性の高い配置とします。
・レストランは大濠公園、日本庭園側に配置し、庭園を望める落ち着いたあるレストランとします。
・ミュージアムショップは国体道路側に開口を大きく取ることで美術館利用者以外の利用も促します。

III 建築計画

III-3 平面計画

2階平面図 1:400 /2FL=GL+6000



■コレクション展示室①～③

- ・コレクション展示室①は1階から2階へと吹抜ける展示室（吹抜け部天井高10m）。メディアヴォイド1階と一体となった展示が可能な空間とします。
- ・コレクション展示室②は天井高5mの展示室。展示室内に小展示室A、小展示室B、を設け、そのうち、小展示室Bには壁面展示ケースを計画します。
- ・コレクション展示室③は天井高4mの展示室。展示室南面、東面に壁面展示ケースを計画します、

■特別展示室①～③

- ・特別展示室①は2階から3階へと吹き抜ける展示室（吹抜け部天井高10m）。大型作品の展示も可能な設えとします。また、展示室内に専用の昇降用エレベーターを設置します。
- ・特別展示室②は天井高7mの展示室。可動間仕切りを設け、多様な展示レイアウトに対応できる計画とします。
- ・特別展示室③は天井高5mの展示室。展示室の南北面に展示ケースを計画します。また、東面は大きく開口を設け、日本庭園側へ視界が抜けるような空間とします。可動間仕切り収納を設け、必要に応じて閉じられるような計画とします。

■メディアスリット、展示ロビー

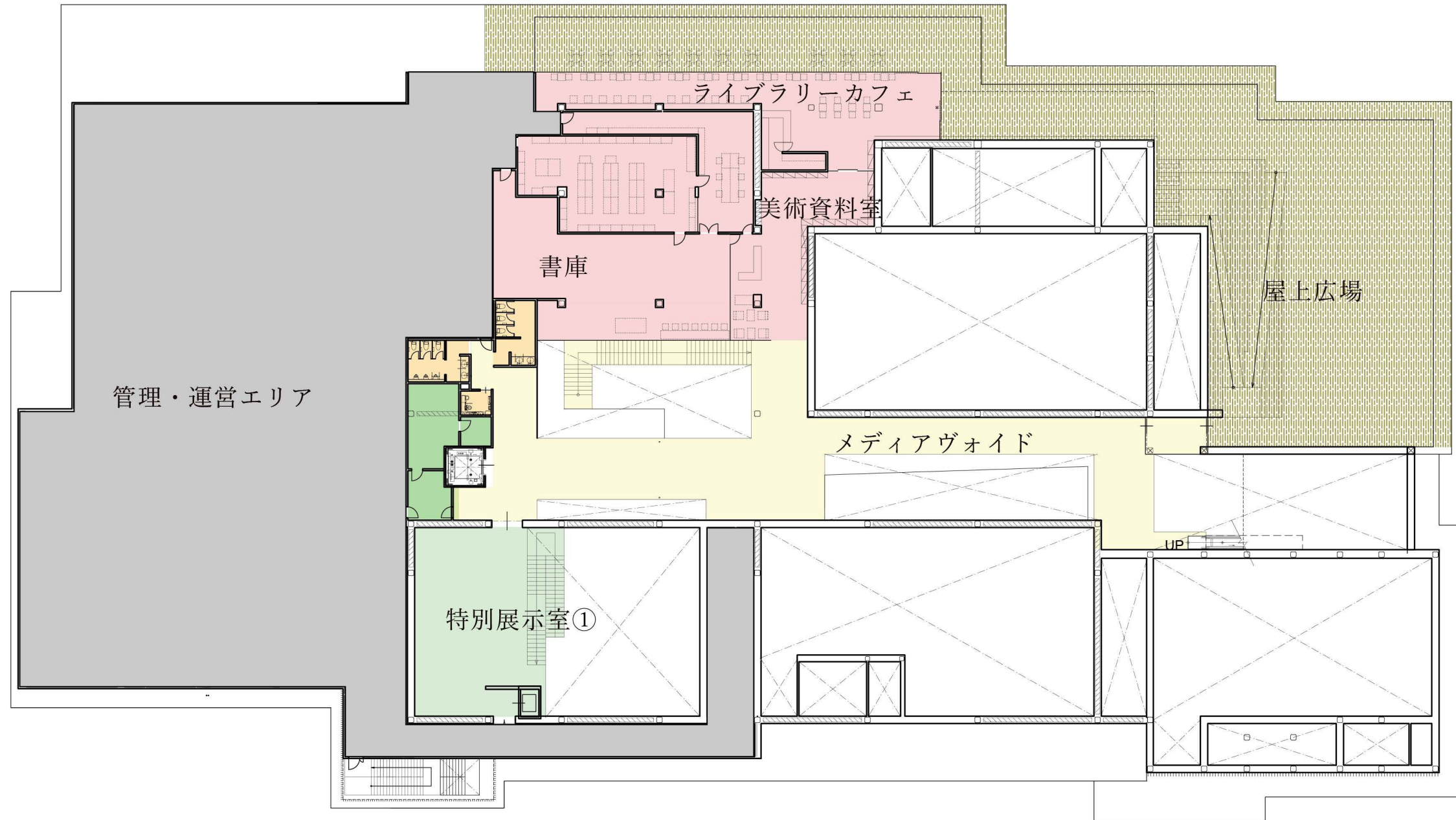
- ・展示室間の緩衝空間としてメディアスリットを配置。また、メディアスリットを経由した建物の南北に展示ロビーを配置します。



III 建築計画

III-3 平面計画

3階平面図 1:400 /3FL=GL+12000



■美術資料室・書庫

- ・メディアヴォイド吹き抜けに面して美術資料室、書庫を配置し、またガラス面とすることでメディアヴォイドに対して開き、来館者に対して視覚的に存在をアピールします。
- ・美術資料室北側にはライブラリーカフェを計画し、大濠公園を眺めながらくつろげるような空間を作ります。

■屋上広場

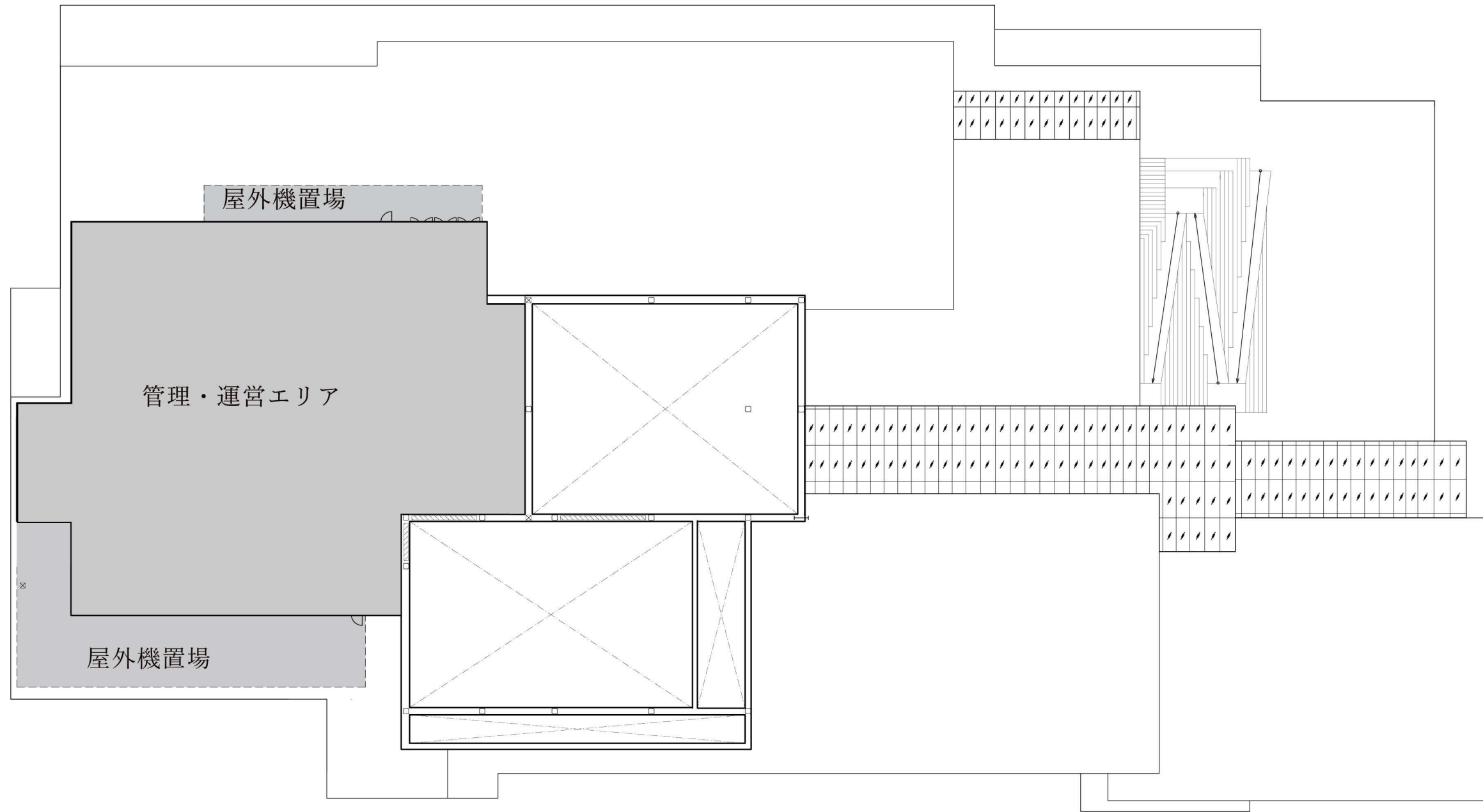
- ・コレクション展示室③の上部、コレクション展示室②の上部にそれぞれ屋上広場を計画します。それに伴い、それぞれの広場をつなぐ階段とスロープを計画します。
- ・メディアヴォイド東側、ライブラリーカフェに出入り口を設けます。



Ⅲ 建築計画

Ⅲ-3 平面計画

4階平面図 1:400 /4FL=GL+16500



■ 4階管理運営エリア

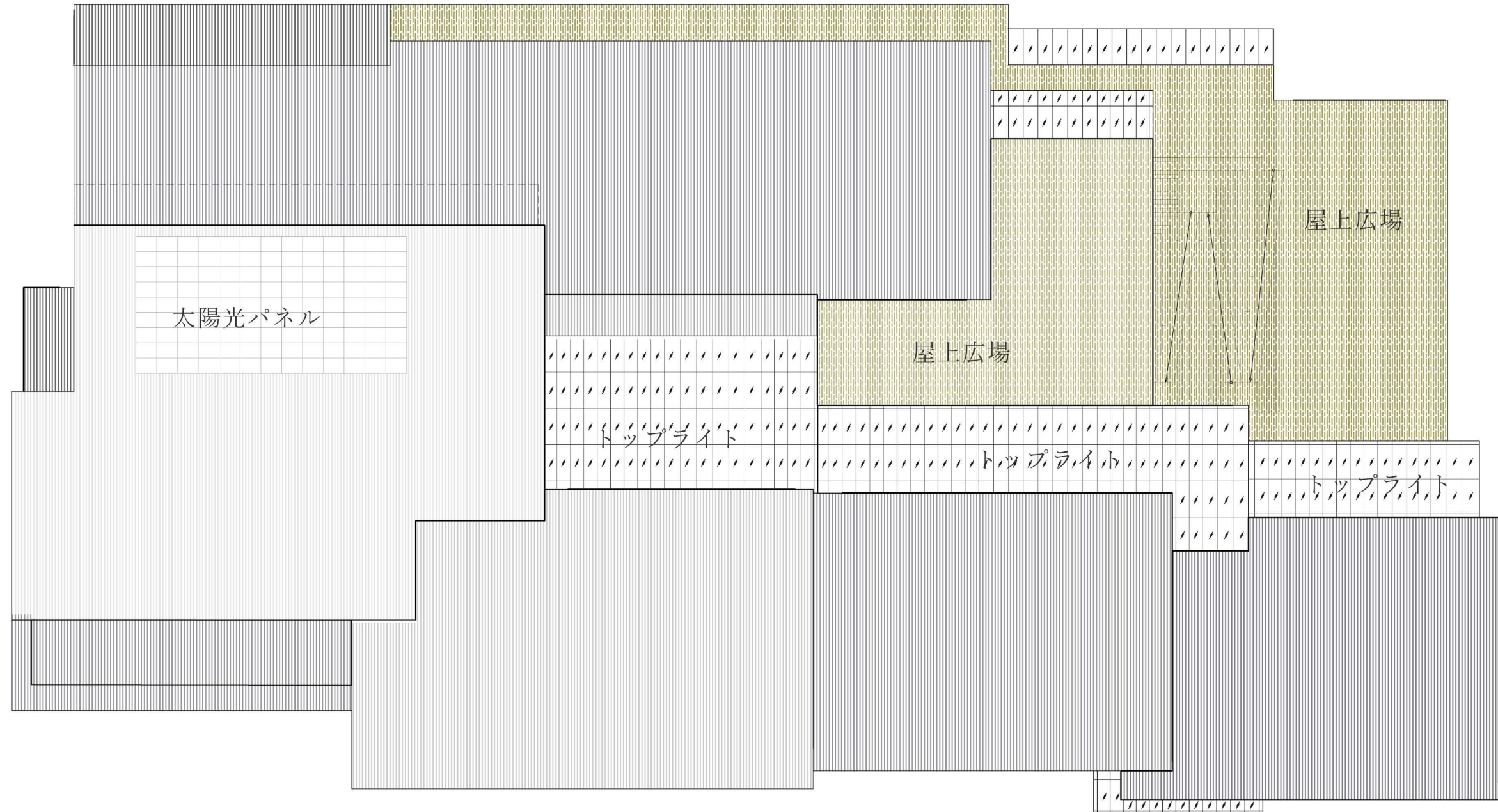
- ・4階には主に管理運営の諸室を配置する計画とします。
- ・4階南北に屋外機置き場を計画します。外観への影響を最小限とするため、可能な限り下階外壁ラインより後退した位置とし、また外側を目隠しルーバーで覆います。



III 建築計画

III-3 平面計画

屋根伏図 1:400



凡例			
	屋根/+6000 (mm)		屋上広場A/+12000 (mm)
	屋根/+12000 (mm)		屋上広場B/+14000 (mm)
	屋根/+14000 (mm)		トップライト、ガラス庇
	屋根/+16500 (mm)		太陽光パネル/+21000 (mm)
	屋根/+17500 (mm)		
	屋根/+18500 (mm)		
	屋根/+21000 (mm)		

■トップライト

- ・メディアヴォイドの上部は日本庭園側にステップダウンするトップライトを設けます。
- ・メディアヴォイドへの直接的な日射を避けるために、トップライト内側に木質ルーバーを配置し、柔らかい自然光を取り入れるような計画とします。
- ・夏季の温度上昇と展示利用を考慮しトップライトに遮光ロールスクリーンを設置します。

■太陽光パネル

- ・4階機械室上部には創エネを目的とした太陽光パネルを設置します。

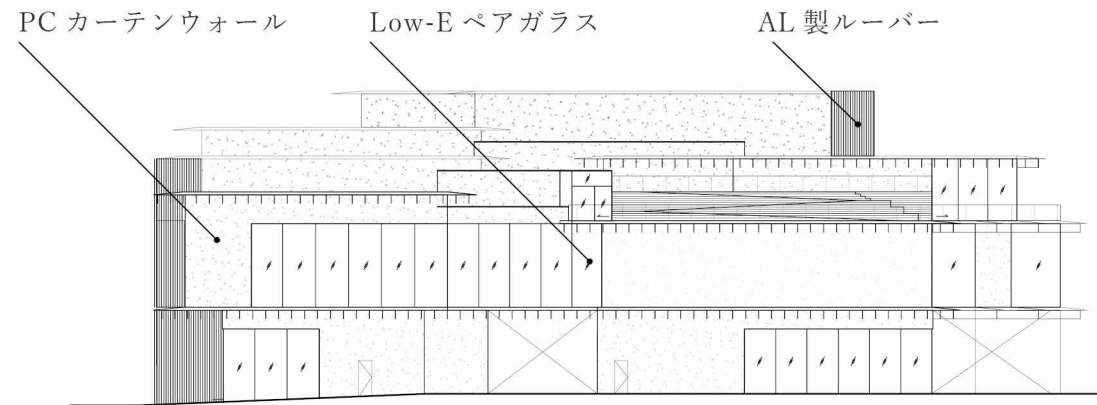
III 建築計画

III-4 立面計画

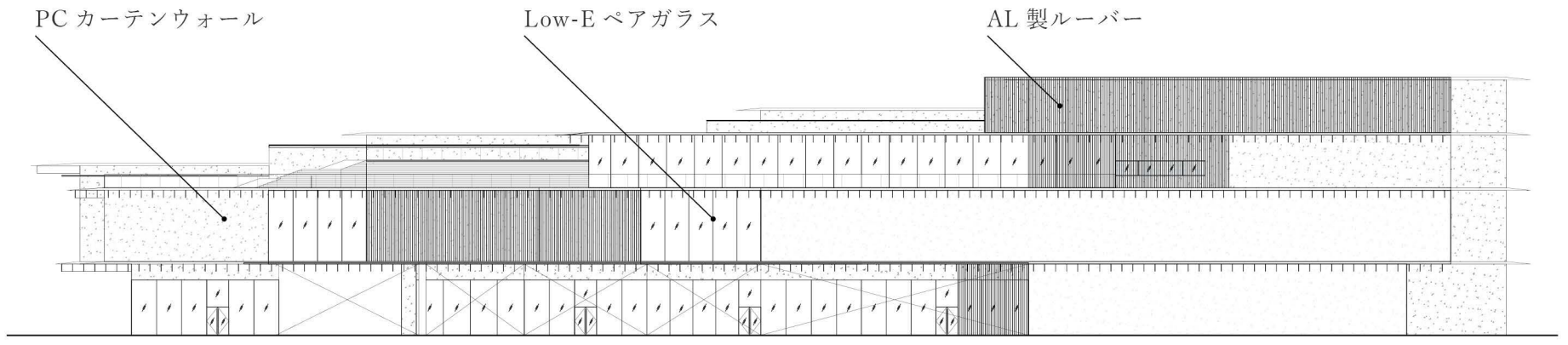
■基本方針

- ・日本庭園側に向かって建物高さをステップダウンさせ、景観に配慮した立面計画とします。
- ・開口部には環境性能の高いペアガラスを採用し、性能を維持しつつ内外に連続感を持つ計画とします。
- ・外壁はPCカーテンウォールを採用し、コレクションを展示、収蔵するために十分な性能の外皮とします。

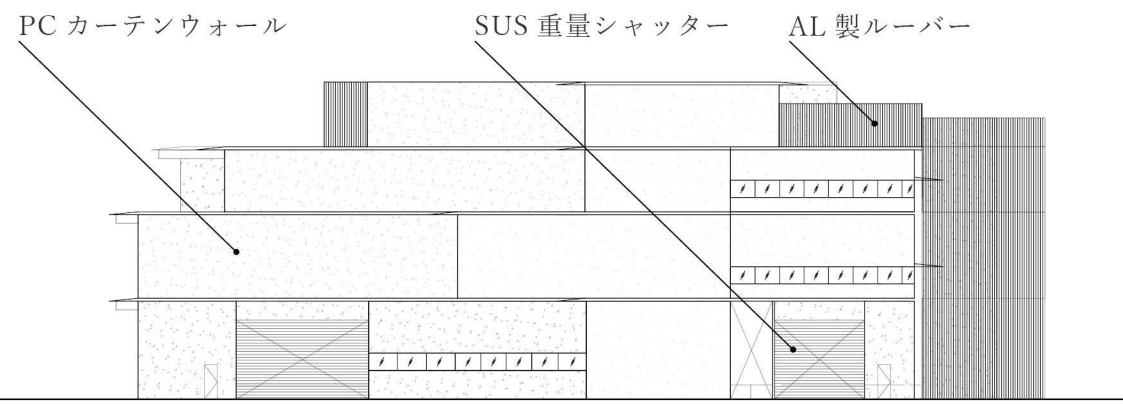
【東側立面図 S : 1/500】



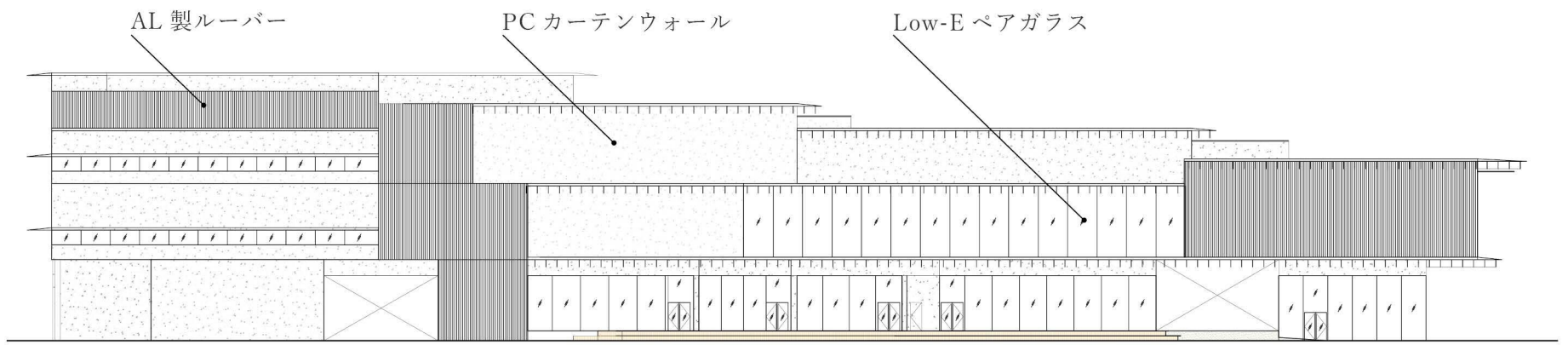
【北側立面図 S : 1/500】



【西側立面図 S : 1/500】



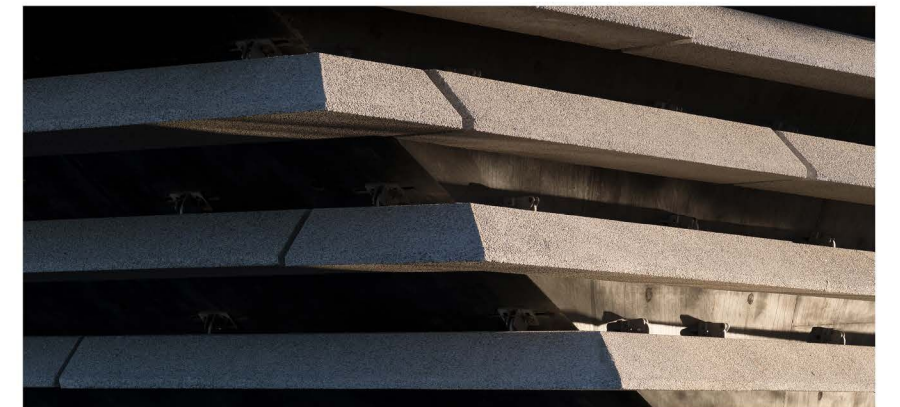
【南側立面図 S : 1/500】



【外部仕上材】

- 屋根：鋼板平葺屋根
- 外壁：PCカーテンウォールフラット貼り
+ウォーターウォッシュ仕上
- 開口部：Low-Eペアガラス
- 屋外機械室置場目隠しルーバー：AL製ルーバー
- シャッター：SUS重量シャッター

【PC板イメージ】



III 建築計画

III-5 断面計画

●様々な機能が滲むメディアヴォイド

- ・施設の交流の核となる大きな吹抜けの空間とします。
- ・メディアヴォイド上部をトップライトとし、木質の遮光ルーバーで覆うことで柔らかい太陽光を取り入れる計画とします。
- ・展示室、多目的室等様々な機能を持つ部屋がメディアヴォイドに立体的に繋がる配置計画とすることで、各部屋内にとどまらない拡張された活用に対応できる計画とします。

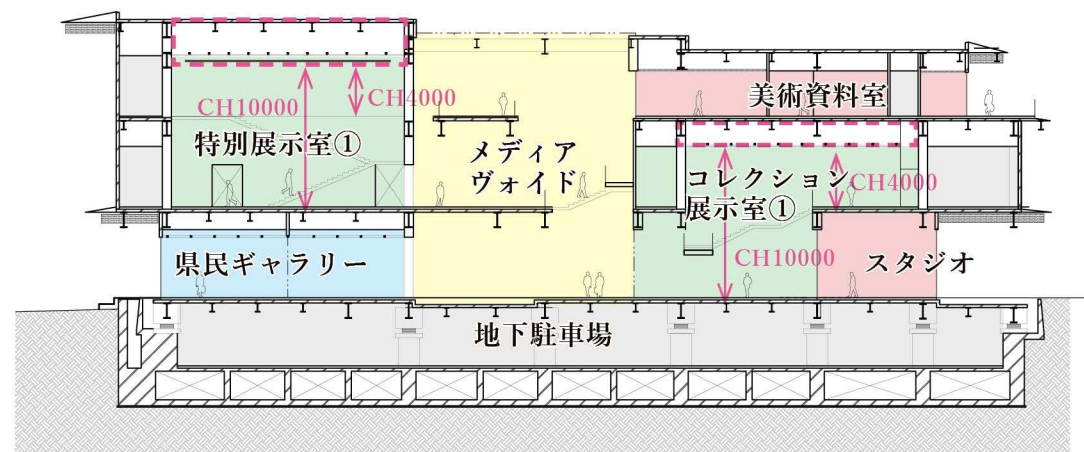
●多様な天井高を持ったコレクション展示室、特別展示室

- ・日本庭園に向かって建物をステップダウンさせることで、各展示室が多様な天井高を持った計画とします。
- ・各展示室を同一階に集約することで、各室の一体利用が可能となり、かつバリアフリーに配慮した計画とします。

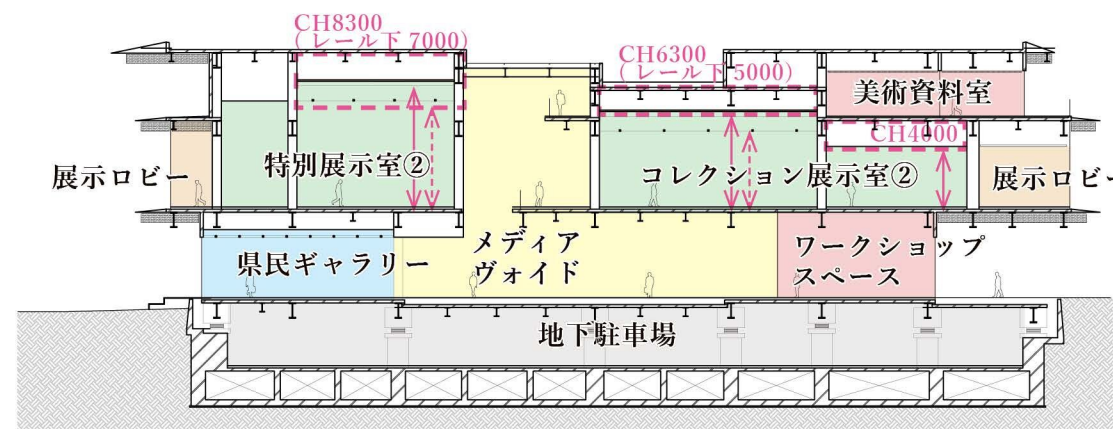
●ゾーニングにおける断面計画上の配慮

- ・共用エリアと管理エリアを東西で明確に分けることで強固なセキュリティを確保します。
- ・展示室、収蔵庫を2階以上に配置することでコレクションを高潮、虫害等の外的要因から守ります
- ・1階カフェ・レストランをアーバンスリットを介して美術館と切り離すことでIPM（総合的病害虫管理）に配慮した計画とします。
- ・収蔵庫、一時保管庫、総務学芸執務室を同一フロアに配置することで、展示替え、管理運営を行いやすい計画とします。
- ・メディアヴォイド、天井の高い展示室はメンテナンスや展示レイアウトを考慮して、キャットウォークを設けます。

【特別展示室①ーコレクション展示室①断面 S:1/500】



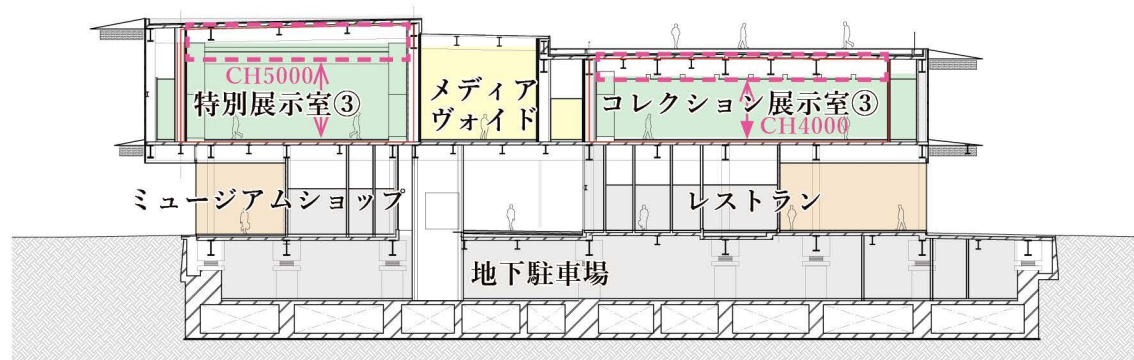
【特別展示室①ーコレクション展示室①断面 S:1/500】



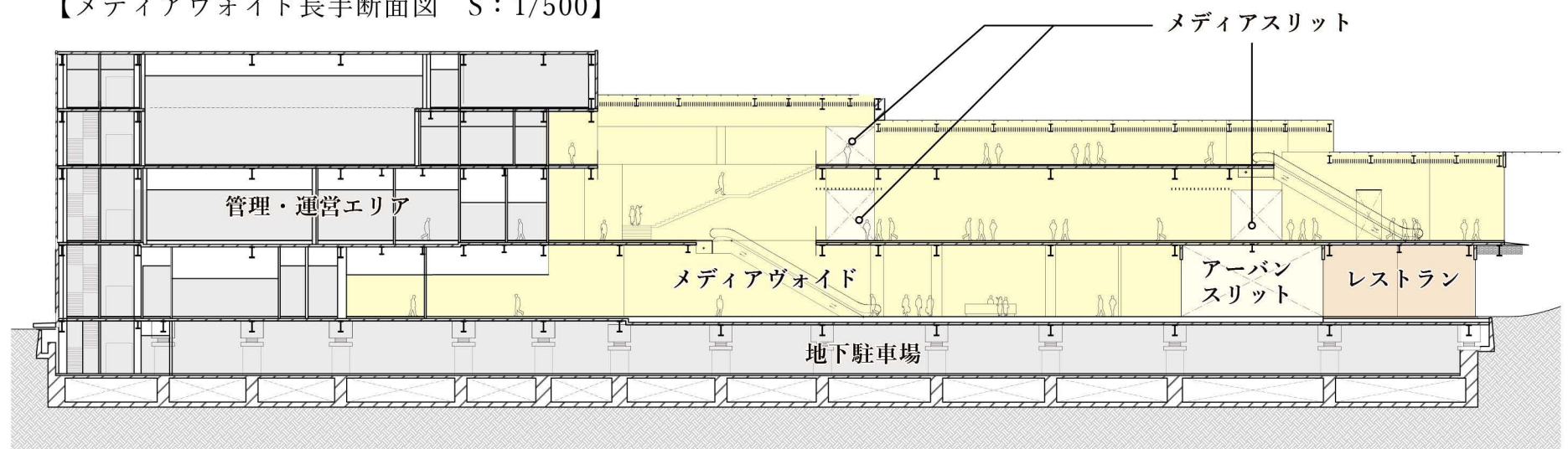
【凡例】

- メディアヴォイド
- 展示ロビー
- 展示公開機能
- 展示公開機能（県民ギャラリー）
- 教育普及・情報発信
- 管理・機械室エリア

【特別展示室③ーコレクション展示室③断面 S:1/500】



【メディアヴォイド長手断面図 S:1/500】



Ⅲ 建築計画

Ⅲ-6 デザイン計画

■基本方針【外観】

- ・ 建物を印象付ける深く持ち出した庇をグリーンイースと定義します。グリーンイースは日射を遮り、環境性能の向上に寄与します。
- ・ 屋根は止水性を高める鋼板葺屋根を採用します。
- ・ 外壁は高いセキュリティを確保し、長い外壁にヒューマンな表情を与える PC カーテンウォールとします。
- ・ 立面ファサードにメリハリをつけ、繊細な印象を与えるルーバーを採用します。
- ・ 屋上広場やケヤキギャラリーのテラスにはメンテナンス性に優れた防腐防蟻処理を施したデッキ材を採用します。

北面（大濠公園側）



南面（国体道路側）



東面（日本庭園側）



Ⅲ 建築計画

Ⅲ-6 デザイン計画

■基本方針【内観】

- ・ 建築が背景となり、アートが主役となるようなニュートラルな仕上げとします。
- ・ メディアヴォイドにやわらかな光を落とし、暖かな印象を与える木質天井ルーバーを採用します。
- ・ 来館者の手に触れる場所、長い時間滞在する場所には、木、和紙、布等の柔らかい自然素材を採用します。

- ・ 1階は外部との連続性、多様な活動に対応したコンクリート系仕上とします。
- ・ 2階以上は展示室内の仕上と連続したフローリング仕上とします。

メディアヴォイド1階



メディアヴォイド2階



メディアスリット



III 建築計画

III-6 デザイン計画

■基本方針【展示室】

- ・ 建築が背景となり、アートが主役となるようなニュートラルな仕上げとします。
- ・ 多様な展示計画に対応可能となるように、ピクチャレール、可動式展示壁収納を必要に応じて配置します。
- ・ 想定される展示計画にあわせた天井意匠をとします。
- ・ 展示照明、空調計画、電源の位置等、設備と一体的に計画します。

コレクション展示室①



10 mの天井高さを持った、1FL～2FLの2層吹抜けの展示室とします。コレクション展示室は主に新県立美術館が持つコレクションを展示する展示室とします。

コレクション展示室②



5 mの天井高さを持った展示室。可動式間仕切り壁の収納を設け、様々な展示レイアウトが可能な展示室とします。また、展示室内には天井高4m程度の小展示室を2室設けます。

コレクション展示室③



4 mの天井高さを持った展示室。展示室東面、南面に壁面展示ケースを設け、主に古美術系の作品を展示することを想定とした意匠とします。場合によっては特別展示室との一体利用ができる展示室とします。

特別展示室①



10 mの天井高さを持った、2FL～3FLの2層吹抜けの展示室とします。展示室内には展示室専用のエレベーターを設置します。特別展示室は様々な企画展に対応できるようなニュートラルな意匠とします。

特別展示室②



7 mの天井高さを持った展示室。可動式間仕切り壁の収納を設け、様々な展示レイアウトが可能な展示室とします。

特別展示室③



5 mの天井高さを持った展示室。展示室南面と北面に壁面展示ケースを設けます。展示室東面開口部から望む日本庭園の緑を借景とする展示も可能です。ガラス面については可動式間仕切りで閉じることもできる計画とします。

ランドスケープ計画

I 基本方針

I-1 外構・植栽計画基本方針

